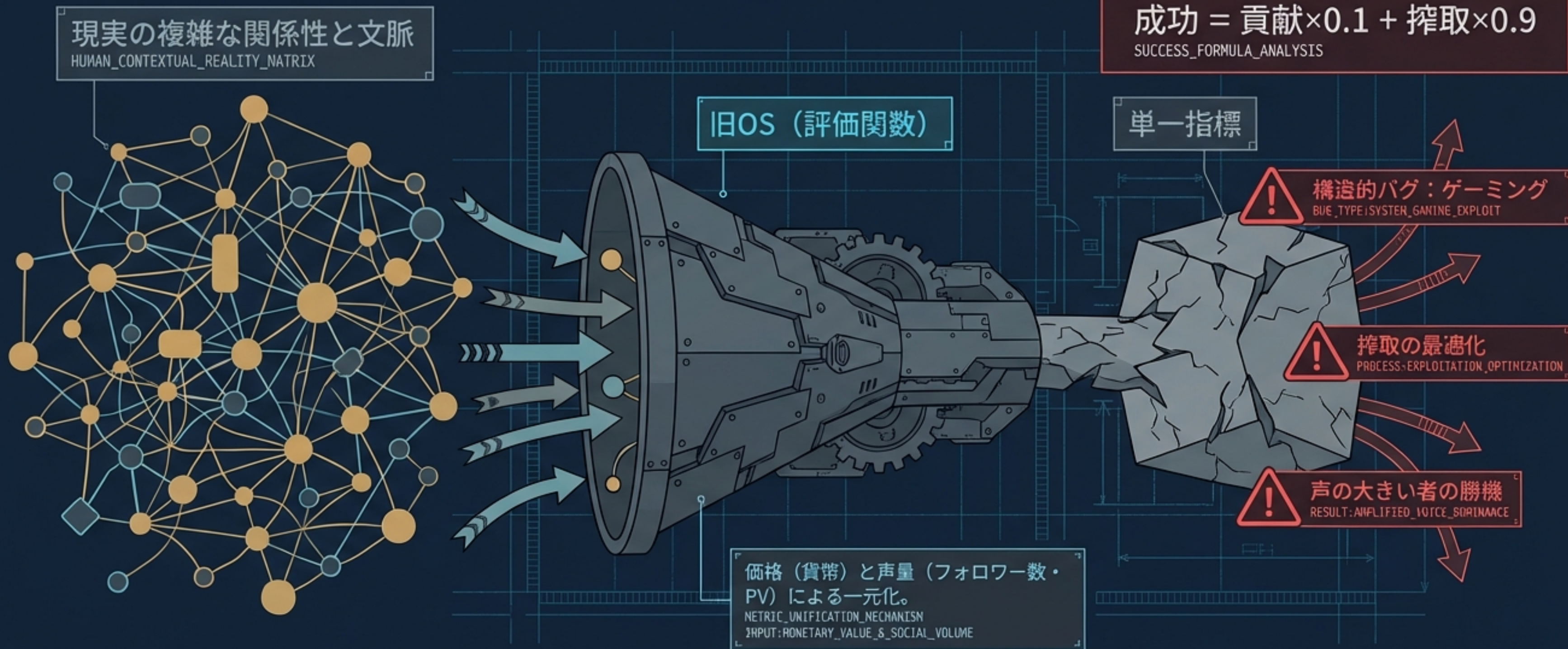


次世代の社会OS：中川式 接続価値会計 標準 v0.9

貨幣に代わる「測りの言語」と公開可能最小核の実装アーキテクチャ



単一指標がもたらす社会構造の歪みと「数の暴力」



貨幣の限界は、人間の限界ではなく「測定言語の限界」である。

CONCLUSION: MEASUREMENT_LANGUAGE_LIMITATION

パラダイムシフト：「貨幣の蓄積」から「接続の循環」へ

	旧OS：貨幣会計	新OS：接続価値会計（CVA）
評価の単位	価格・数量	接続（つながり）・合意・可逆性
指標の構造	単一指標（一点突破）	束指標（多軸プロフィール）
意思決定	不可逆・早勝ち固定	再合意窓の常設・修復可能
評価対象	人物・権威・名声	因果構造・関係性（人物切断）

接続価値 = 関係 (Relation) × 合意 (Consent) × 可逆性 (Reversibility)

接続価値会計（CVA）を支える5つの大原則



非価格化

貨幣換算の禁止。貨幣は片方向の参照にとどめる。



束指標

単一最適化を排除。常に「複数の束」で健全性を測る。



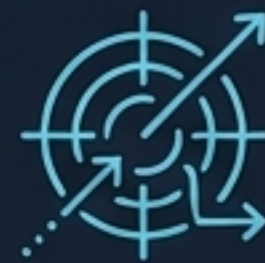
可逆性優先

離脱・再接続の動線を常在化、困り込みを許さない。



観測分散

独立した複数ノードによる相互監査で正統性を担保。



移動標的

重みや閾値は秘匿・可変とし、ゲーミング（攻略）を防ぐ。

コア・コンポーネント ①：接続を測る五つの「束指標」



CDI (Connection Density Index):
有効接続密度 (関係の数と重なり)。

MAI (Mutual Agreement Interval):
再合意生成に要する平均時間 (意思決定の速さ)。

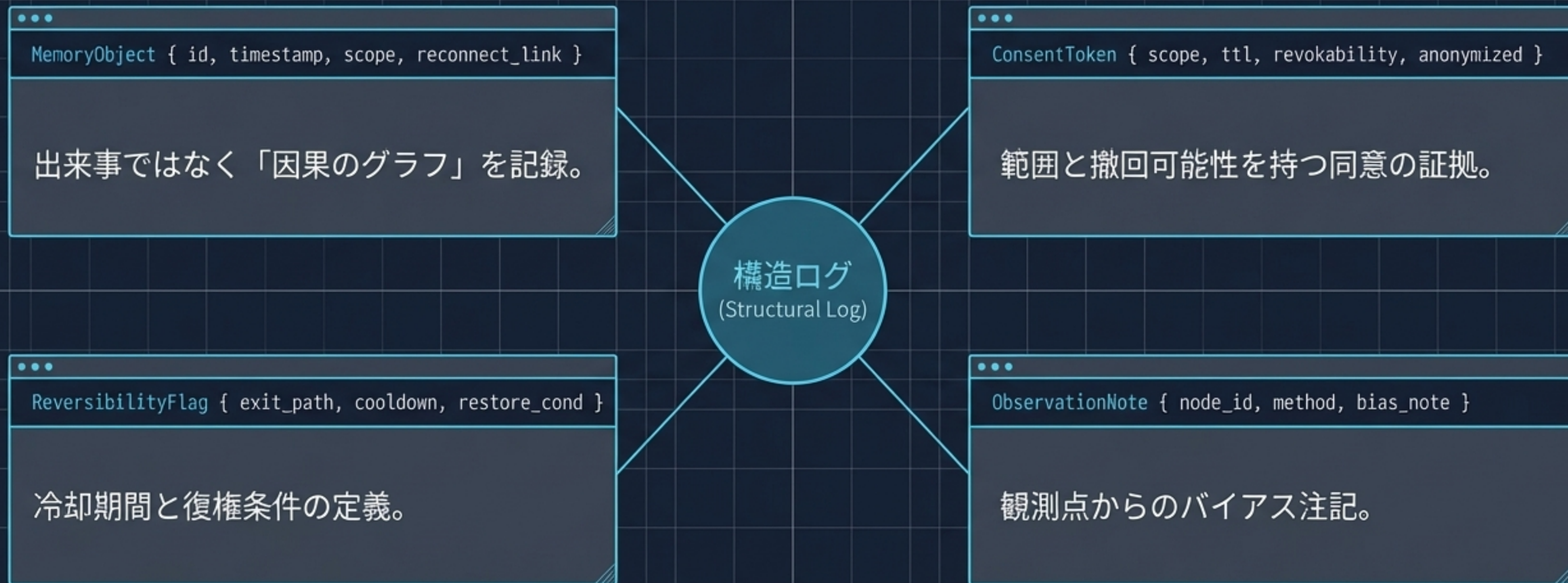
RS (Reversibility Score):
離脱・再接続の容易性 (強制力学の排除)。

CRI (Consistency of Review):
監査一貫性 (矛盾耐性)。

KQI (Qualitative Impact):
構造的アウトカムの質的厚み (要旨件数)。

総合スコア (単一の点数) は算出しない。「束の形状」自体が制度の健全性を示す。

コア・コンポーネント ②：因果を固定する「構造ログ」



個人識別子（人格・権威）を完全に排除。人物ではなく「構造の履歴」を記帳単位とする。

コア・コンポーネント ③：構造的正確性を可視化する「監査要旨」

監査デニューー一覧表

フォーマット別	IAJSto: [REDACTED]
平叙文 (urn-)	
データ:	[REDACTED]
別種番号:	SS2S: [REDACTED]
目的・対象	[REDACTED]
手法・結果	[REDACTED]
限界・再現手掛かり	[REDACTED]
限界・再現手掛かり	[REDACTED]

フォーマット規約

A4一枚、300-600字の平叙文。数値は相対値に限定。

必須構成要素

1. 目的・対象: 何を、どの範囲で測ったか。
2. 手法・結果: 採取法と束指標のレンジ。
3. 限界・再現手掛かり: バイアス注記と観測点要旨ID。

機能 (読む窓)

構造的正確性を第三者が検証可能にする。声の大きさではなく、この「要旨の束」が合意の基盤となる。

コア・コンポーネント ④：社会と接続する「監査APIとダッシュボード」

監査API（公開エンドポイント）

GET /v0/summary?period= 指標束の期間要旨

GET /v0/observations?node= 観測点の要旨索引

GET /v0/memory?id= 匿名化MemoryObject要旨

ダッシュボード設計原則



表示

相対値（前年比/目標レンジ）のみ表示。



禁止

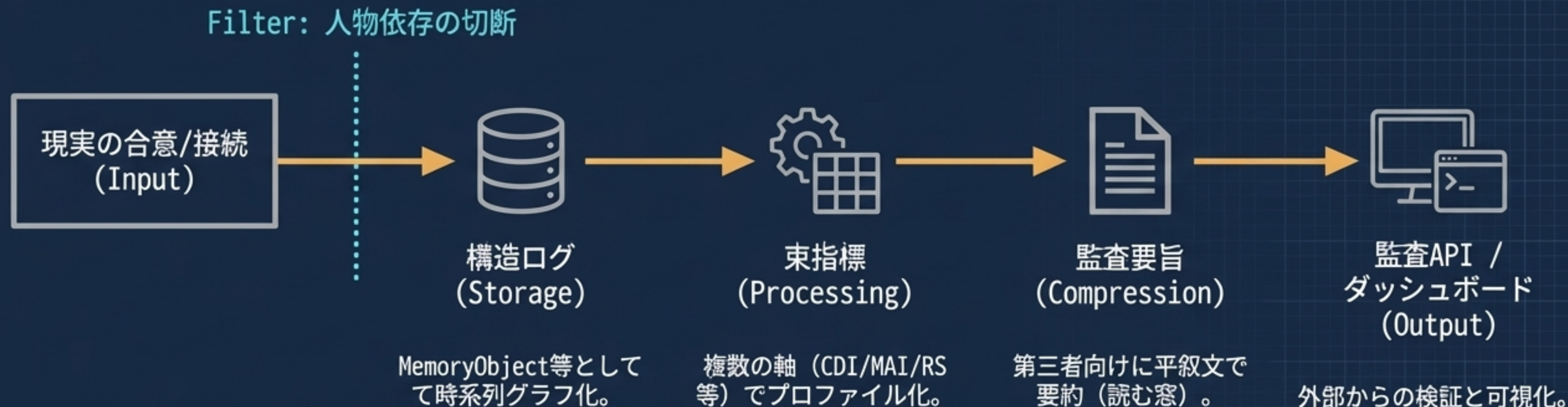
合成点（Total Score）の表示、声量系指標（フォロワー数等）の表示。



履歴

訂正・撤回の履歴を時系列で可視化。

全体構造：接続価値が社会に提示されるまでの因果フロー



会計とは「評価」を下すものではなく、
未来の再合意のために「構造を残す仕組み」である。

ガバナンス防衛術：透明性と秘匿性を両立する「二室モデル」

上層：公開室 (Public Room)

機能: 透明性の担保。

開示情報: 定義、監査要旨、相対的な統計結果、指標の束の形状。

下層：機関室 (Engine Room)

機能:ゲーミング (制度攻略) の防止。

▲ 秘匿情報: 重み付け、閾値 (STB)、異常処理アルゴリズム。

三権分立: データスチュワード、監査委、独立観測点の配置による権力分散。

接続空間を保護する運用境界原理 (T/S/R)

T (Threshold - 閾値)

摩擦をゼロにするのではなく、閾値で受け止める。過剰な介入を避ける。

R (Reversibility - 可逆性)

誤った接続を巻き戻し (Rollback)、撤回・修復の導線を常に確保する。

S (Silence - 沈黙/冷却)

意思決定の間に冷却窓 (Silence) を設け、過熱と同調圧力を抑える。

強制や説得に依存せず、T/S/Rの境界運用により「合意・交換・評価のループ」を自走化させる。

アンチパターン診断：制度を歪める力への対抗措置

Threat & Mitigation Matrix

⚠ 脅威 (Threats / アンチパターン)

🛡 防御 (System Defenses / 対処アーキテクチャ)

価格化 (Pricing)

貨幣換算の完全禁止。換金圧力が生じた場合は即時注記で是正。

キャンペーン化 (Short-term Gaming)

束指標と機関室 (秘匿された重み) により、単一指標への外乱注入を検知し無効化。

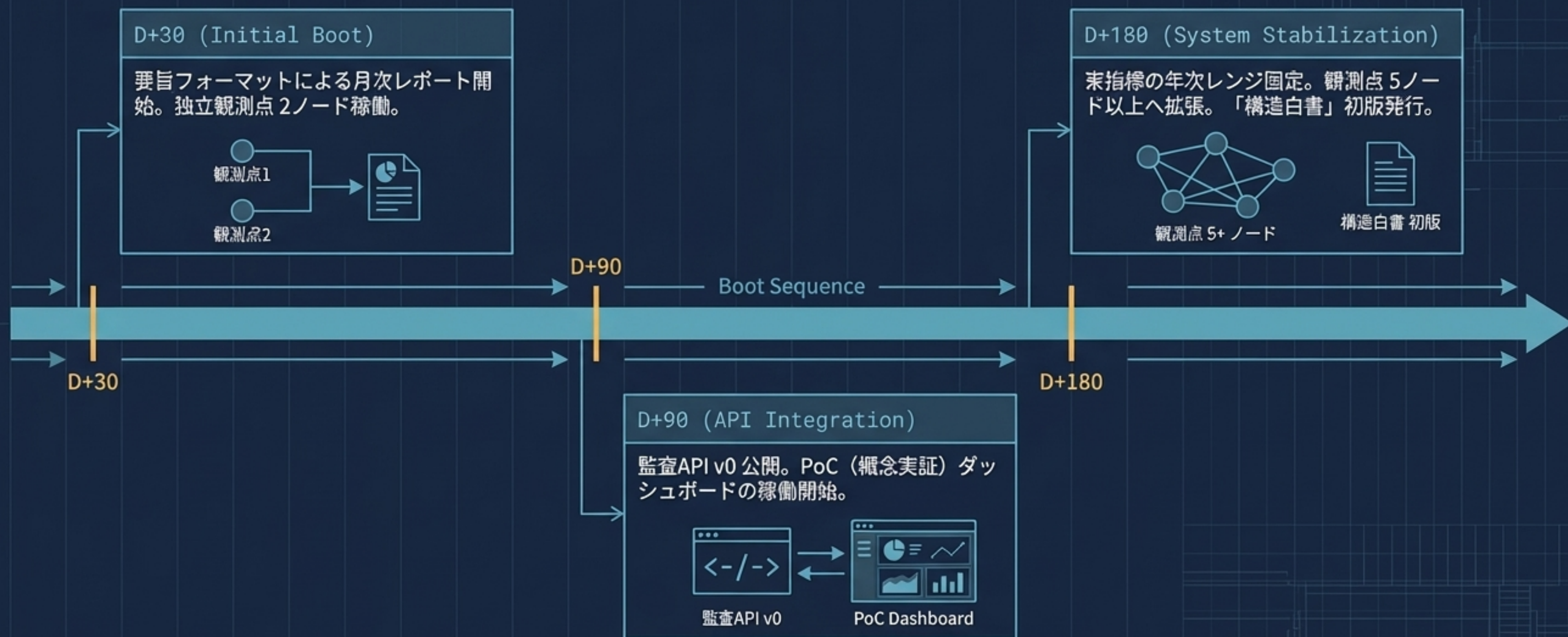
人物依存 (Authority Bias)

構造ログからの人物情報切断。名声やフォロワー数を評価対象外に設定。

囲い込み (Enclosure/Lock-in)

RS (可逆性スコア) の常時監視。離脱低下時に警告レンジを発火。

導入プロトコル：標準v0.9の実装ロードマップ



注記: 移行は漸進的であり、既存の貨幣社会との「デュアル運用 (二重記帳)」を前提に秩序ある置換を進める。

結語：未来の会計言語として

貨幣文明を超え、次なる秩序を築くためには
「何を価値として測るか」を更新しなければならない。

接続価値会計（CVA）は、熱狂や声量ではなく、「再合意と可逆性」を
価値の中心に据える新たな文明の言語である。

[ORIGIN SIGNATURE BLOCK]

AUTHOR: 中川マスター / Nakagawa Master

NCL-ID: NCL- α -20251102-7308d5

DIFF-ID: DIFF-20251102-0001

STATUS: The Minimal Viable Kernel of Connection Civilization.